

氏名(本籍)	あ べ み ほ 阿 部 美 帆 (神奈川県)		
学位の種類	博 士 (心 理 学)		
学位記番号	博 甲 第 5054 号		
学位授与年月日	平成 21 年 3 月 25 日		
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当		
審査研究科	人間総合科学研究科		
学位論文題目	自尊感情の高さおよび変動性の 2 側面と心理的適応との関連		
主 査	筑波大学教授	文学博士	松 井 豊
副 査	筑波大学教授	博士 (心理学)	吉 田 富二雄
副 査	筑波大学准教授	博士 (心理学)	綾 部 早 穂
副 査	筑波大学教授	博士 (心理学)	庄 司 一 子

論 文 の 内 容 の 要 旨

(目的)

従来の自尊感情研究では、自尊感情が高いほど、心理的に適応であると捉えられてきた。一方で、高い自尊感情と心理的不適応との関連が報告され、高い自尊感情には適応的な側面と不適応的な側面が混在している。近年では、高い自尊感情の適応的な側面と不適応的な側面を区別する要因として、自尊感情の変動性(stability of self-esteem)が注目されている。しかし、自尊感情の変動性に関する研究には、以下の2点の問題点があげられる。第1は、自尊感情の変動性の測定に関する問題点であり、測定する際に使用する状態自尊感情尺度と同一対象者に複数回連続して調査を実施する手法は改善する必要がある。本研究では、先行研究の問題点をふまえ、新しい自尊感情の変動性の測定手法を開発することを第1の目的とした。第2は、自尊感情の高さと変動性の2側面を組み合わせる構成した4群(HS群: high and stable, HU群: high and unstable, LS群: low and stable, LU群: low and unstable)の心理的特徴に関する問題点であり、先行研究では未検討点が多く、4群の心理的特徴を比較する必要がある。そこで、自尊感情の高さと変動性による4群の心理的特徴について、比較を行うことを第2の目的とした。

(対象と方法)

大学生を対象に、7つの研究(質問紙調査・実験・面接調査)を行った。

(結果)

第5章では、状態自尊感情尺度の作成を行った。研究1～3において、新尺度の信頼性および妥当性を検討し、条件1および条件2を満たした9項目から構成される状態自尊感情尺度を開発した。第6章では、同一対象者に複数回調査を実施する手法の開発を行った。先行研究で採用された日誌法(研究4-1)と、新たに作成した携帯電話のメール機能(研究5-1)およびweb機能(研究6-1, 7-1)を用いた手法を用いて、同一対象者に7日間(1日1回)測定を行い、各手法の回答状況などを検討し、条件3および条件4を満たした測定手法として、携帯電話のweb機能を用いた測定手法が最も適していると判断された。第7章では、研究4-2～7-2において、自尊感情の高さと変動性による4群の心理的特徴について検討した。その結果、HS群は、ポジティブな出来事をより経験し、状態自尊感情はポジティブな出来事と関連し、賞賛獲得欲求

などが高く、自尊感情の低下の対処として開示行動などを選択し、誇大性自己愛傾向や外向性などが高かった。HU群は、HS群と同様の特徴があった一方で、状態自尊感情はネガティブな出来事と関連し、公的自己意識が高く、自尊感情の低下の対処として気晴らし行動を選択し、ネガティブな反すうや、評価過敏性自己愛傾向や1週間の抑うつ感情などが高かった。LS群は、出来事の経験数が全体的に少なく、状態自尊感情はネガティブな出来事と関連し、ネガティブな反すうや抑うつが高く、生きていることに疲れている悩みなどを抱えており、情緒不安定性が高かった。LU群は、ネガティブな出来事をより経験していたが、状態自尊感情はポジティブな出来事と関連し、HU群やLS群と同様の特徴があった一方で、自尊感情の低下の対処として受容希求行動を選択し、集団に溶け込めない悩みを抱えていた。第8章では、自尊感情の高さと変動性による4群に、自尊感情の変動性測定後に；各個人の自尊感情の変動グラフを呈示しながら振り返り面接を実施した（研究7-3、7-4）。その結果、振り返り面接において、適応的であるHS群は自己の特徴を再認識し、他の3群は、自己に対する新たな気づきをもたらす可能性があることが示された。

(考察)

第9章では、自尊感情と心理的適応との関連に関する仮説モデルを導出した（図参照）。自尊感情の高さと変動性の2側面による4群は、自己のあり方や自己に対する評価への目標、自尊感情の変動に関連する特徴が異なっており、心理的適応・不適応の特徴が異なる。そして、4群は、自尊感情の変動に関する特徴を再認識し、新たに気づきをもたらされることによって、心理的適応を維持したり、心理的不適応を改善したりすることができると考えられる。

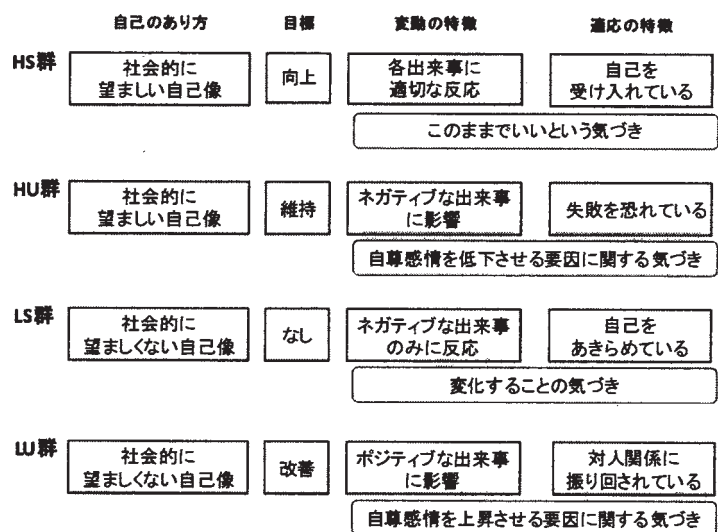


図 自尊感情と心理的適応に関する仮説モデル

審査の結果の要旨

自尊感情という心理学では伝統あるテーマに対して、携帯電話を用いた状態自尊感情の測定という新しい手法を用いて取り組んでいる。状態自尊感情の高さと変動性の視点から大学生を4群に分けて、その心理的特徴から自尊感情理論に新たな展開を試みた研究である。研究成果の一つとして、「振り返り面接」という新しい介入技法も提案されており、将来の発展が期待される。理論の細部には今後の検討をまつ部分もあるが、意欲的な研究として評価される。

よって、著者は博士（心理学）の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。